

試合結果報告 (GAME REPORT)

大会名称/Title:	第 22 回日・中・韓ジュニア交流競技会 バasketボール競技 男子	
会 場/Venue:	一関総合体育館 UDーム	
期 日/Date:	平成 26 年 8 月 27 日 (水) 10:00~	試合区分:

【 試合結果 】																			
日本	100	<table border="0"> <tr><td>23</td><td>-</td><td>27</td></tr> <tr><td>30</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>28</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	23	-	27	30	-	16	28	-	23	24	-	23	-	-	-	89	中国
23	-	27																	
30	-	16																	
28	-	23																	
24	-	23																	
-	-	-																	
(3 勝 0 敗)				(- 勝 - 敗)															

日本のスピードと中国の高さという両チームの特長を前面に出した好ゲーム。40分間激しいプレッシャーをかけ続けた日本のディフェンス力と高確率のシュート力が光る。

第 1 ペリオド

日本はオールコートマンツーマンディフェンス、中国はハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。序盤、日本は激しいディフェンスで中国のミスを誘い、速攻から#8 鳥羽、#4 濱田の 3P が決まり、リードを奪う。対する中国は高さを生かした#10Chen のゴール下や#7Huang のドライブで応戦。さらに中国は、ハイピックから#9Bai の 1on1 を中心に得点リズムを掴む。両チーム互角の展開から終了間際に中国#7Huang のブザービーター 3P が決まり、23-27 の中国リードで終了。

第 2 ペリオド

中国は日本のオールコートプレスに冷静に対処し、パスダウンから#7Huang の速攻が連続で決まり、残り 7 分で 29-36 とリードを広げる。日本は 1 ペリオドでやられていたスクリーンに対する守りを修正し、中国のミスから#10 鶴巻、#5 長谷川の連続 3P で追撃。残り 5 分 33 秒に#4 濱田の 3P で逆転、さらに#5 長谷川の速攻からバスケットカウントが決まり 40-36 と日本がリードを広げたところで中国が前半 2 回目のタイムアウト。その後もディフェンスのプレッシャーを緩めない日本に対し、中国はミスが増え始め、得点が伸びない。日本は#4 濱田の 3P、#14 高橋のドライブからの合わせ、#8 鳥羽の 3P などで着実に加点し、前半を 53-43 の日本リードで折り返す。

第 3 ペリオド

日本はプレッシャーディフェンスからの速攻、中国はスクリーンプレーからのドライブで互いに得点を重ね、一進一退の攻防が続く。残り 6 分、日本は#4 濱田がこの日 4 本目の 3P を決め、66-52 とリードを広げたところで中国がタイムアウト。中国はディフェンスを 2-3 ゾーンに変え、活路を見出そうとするが、日本は素早いパス回しから#12 秋山、#10 鶴巻が連続で 3P を沈め、これを攻略。逆に 75-55 とリードを広げ、中国が後半 2 回目のタイムアウト。中国はディフェンスを再びマンツーマンに戻し、高さを生かしたインサイドや#8Wang の 3P で点差を詰め、81-66 の日本リードで終了。

第 4 ペリオド

中国は 2-3 ゾーンとマンツーマンのチェンジングディフェンスで日本の攻撃のリズムを狂わそうとするが、日本は#5 長谷川、#7 中村が冷静にゲームをコントロールし、中国の追い上げを許さない。残り 5 分から中国はオールコート 2-2-1 ゾーンプレスで逆転への執念を見せるが、日本は#6 村井のドライブ、#15 鈴木の速攻などで着実に得点を重ね、105-89 で勝利した。

担当者: 岩手県高体連バスケットボール専門部	所属: 千葉 紘平
------------------------	-----------